

【河川】平成10年洪水から20年 座談会 伊達地区(伊達市・桑折町・国見町)開催!

平成30年11月21日
福島河川国道

1. 概要

- 今年(平成30年)は平成10年8月末洪水及び9月台風5号洪水による甚大な被害が発生した「平成10年災害」から20年の年にあたります。
- 「平成10年災害」を忘れてはならない教訓として次世代に語り継ぎ、大規模氾濫時の避難を含めた今後の対応について考えるきっかけづくりを目的として、平成30年11月21日に伊達地区(伊達市・桑折町・国見町)の座談会を開催しました。
- なお、本座談会は、阿武隈川の直轄改修事業が平成31年をもって100周年を迎えるにあたり、**100周年事業プレイベントの第3弾**として開催しました。

2. 開催概要／実施状況

- 日 時：平成30年11月21日(水)9:30～11:30
- 場 所：伊達市保原市民センター
- 出席者：伊達市長、桑折町長、国見町長、
福島県県北建設事務所長、
福島河川国道事務所長、ほか14名
- 参加者：約50名

議事内容

- ・(1)平成10年災害の振り返り
- ・(2)平成の大改修をはじめとした平成10年災害後の取組み
- ・(3)これからの阿武隈川を考える

※別途、議事録を公表する予定です。

3. 主なご意見・コメント等

【須田博行 伊達市長】

- ・各地域で甚大な被害が頻発しており、「想定外」という言葉はもはや当てはまらない。
- ・過去の大災害を振り返って防災意識を醸成していく必要がある。

【高橋宣博 桑折町長】

- ・阿武隈川は災害をもたらす一方で、私たちの生活に富と豊かさをもたらしてくれる川。
- ・治水対策とともに、川の特性を活かしながら未来に向けた活用方法も考えていきたい。

【太田久雄 国見町長】

- ・さまざまな自然災害が発生している状況で、広域的な観点で議論がなされる非常にタイムリーな場。
- ・災害時には「情報の共有」が一番のポイント。また、空振りを恐れずにスピーディーな対応をすることが重要。

【その他】

- ・当時は、水防活動に際して資機材の不足や指揮系統の混乱など課題があったが、ひとつずつクリアしている。大きな災害を知らない消防団員も増えた。スマートフォン等の活用や訓練で技術を高めていかなければ。
- ・平成の大改修で外水の心配は減ったが、今後は内水や支川のバックウォーター現象が問題。
- ・かわまちづくりの他、遊水地を活用したパークゴルフやサイクリングロード整備などを通じて、川を身近に感じられるようにしていければ。
- ・孫と一緒に魚をとれる阿武隈川になればいいと望んでいる。



座談会の様子

